

## 会議傍聴報告書

会 議： IASB 会議（2021年11月）

日 時： 2021年11月15日（月）、16日（火）、19日（金）

報 告 者： 企業会計基準委員会 専門研究員 加藤 紘司

## IASB 会議（2021年11月）傍聴報告

日時：2021年11月15日（月）、16日（火）、19日（金）

スケジュール：別紙参照

2021年11月15日、16日及び19日に、オンラインにて、国際会計基準審議会（以下「IASB」という。）のボード会議が開催された。11月のIASBボード会議では、次の項目が議論された。

- 料金規制対象活動
- 第3次アジェンダ協議
- のれんと減損
- 基本財務諸表
- IASB 作業計画のアップデート
- IFRS 第10号「連結財務諸表」、IFRS 第11号「共同支配の取決め」及びIFRS 第12号「他の企業への関与の開示」の適用後レビュー
- 動的リスク管理
- IFRS for SMEs 基準の第2次包括レビュー

**【11月15日（月）】**

## **料金規制対象活動**

**（背景）**

IASBは、2012年9月に料金規制対象活動に関する包括的なプロジェクトを開始し、新たな会計モデルの開発を進めている。2021年1月に公開草案「規制資産及び規制負債」を、2021年7月をコメント期限として公表した。本公開草案は、規制資産及び規制負債を会計処理するためのモデルに関してのIASBの提案を示しており、新しいIFRS基準書として公表される場合、当該提案はプロジェクト完了時まで適用する暫定基準のIFRS第14号「規制繰延勘定」を置き換えることになる。

2021年10月のIASBボード会議では、本公開草案に対するフィードバックについて議論が行われた。

**（今回の会議における主な論点）**

今回のIASBボード会議では、本公開草案に対するフィードバックについて引き続き議論が行われた。

**（主な暫定決定事項）**

IASBは、何も決定を求められなかった。

**（今後の予定）**

IASBは、今後提案の再審議の計画について議論する予定である。

## **第3次アジェンダ協議**

**（背景）**

IASBは、2021年3月に情報要請「第3次アジェンダ協議」を、2021年9月をコメント期限として公表した。本情報要請は、次の質問事項から構成される。

- a. IASBの活動の戦略的方向性及びバランス
- b. IASBの2022年から2026年の作業計画に追加することが考えられる財務報告の論点の優先度の評価のための要件
- c. IASBの2022年から2026年の作業計画で優先することが考えられる新たな財務報告の論点

**（今回の会議における主な論点）**

今回の IASB ボード会議では、本情報要請に対するフィードバックについて議論が行われた。

**（主な暫定決定事項）**

IASB は、何も決定を求められなかった。

**（今後の予定）**

IASB は、本情報要請に対するフィードバックについて引き続き議論し、そこで提起された事項について決定を行う予定である。

**【11月16日（火）】**

**のれんと減損**

**（背景）**

IASB は現在、IFRS 第 3 号「企業結合」の適用後レビューの結果に対応するリサーチ・プロジェクトを進めており、2020 年 3 月にディスカッション・ペーパー「企業結合—開示、のれん及び減損」を、2020 年 12 月をコメント期限として公表した。

2021 年 5 月の IASB ボード会議では、ディスカッション・ペーパーに寄せられたフィードバックを踏まえて、のれんの事後の会計処理（特に、のれんの償却を再導入すべきかどうか）の議論を優先する再審議の計画が説明された。その後、7 月の IASB ボード会議において、多くの IASB メンバーから議論の進め方や追加情報の必要性に関する意見が述べられたことから、9 月の IASB ボード会議においては、新たな再審議の計画が議論され、企業結合に関する開示の提案についての暫定的な決定及びのれんの事後の会計処理についてのフィードバックの具体的な諸側面の分析を優先して議論を行うことが決定された。

当該計画に基づいて、10 月の IASB ボード会議では、企業の経営者が企業結合から期待している便益及び経営者の目的がどの程度まで果たされつつあるのかに関する情報の開示の場所（財務諸表に注記すべきかどうか）について議論が行われ、理屈の観点では、「財務報告に関する概念フレームワーク」に基づいて当該情報を財務諸表において要求することができるかと暫定的に決定され、実務上の課題への対応の観点では決定を求められなかったが、複数の代替案が検討された。

**（今回の会議における主な論点）**

今回の IASB ボード会議では、IFRS 第 3 号における開示要求の改善についての予備的見解の諸側面について再審議が行われた。

**（暫定決定事項）**

**企業結合から生じる期待されるシナジー**

IASB は、シナジーの金額又は金額の範囲の見積り及びシナジーがいつ実現すると見込まれるかの開示を企業に要求するという予備的見解に対するフィードバックについて議論を行った。

IASB は、コメント提出者から指摘された実務上の懸念をより良く理解するために、利害関係者との間で事例のテストを実施している。当該事例をテストする目的上、IASB は、事例は次に挙げた事項に係る情報の開示を例示すべきであると決定した。

- a. 性質別に分解した期待されるシナジーの合計額（例えば、収益合計、コスト合計及び他の種類のシナジーについての合計）
- b. シナジーから期待される便益がいつ開始するのか及びどれだけ続くのか（これには、それらのシナジーが一時的と見込まれるのか、経常的と見込まれるのかを企業が識別することが必要となる。）。

また、IASB は、企業結合から生じると期待されるシナジーに関して、次のことも暫定的に決定した。

- a. 「シナジー」を定義しない。
- b. 予備的見解の他の具体的側面に対するフィードバックの結果として予備的見解に変更を行わない。

**取得した事業の寄与**

IASB は、取得した事業の寄与について、次のことを暫定的に決定した。

- a. IFRS 第3号の B64 項 (q) における要求を維持する。
- b. IFRS 第3号の B64 項 (q) (ii) における要求の目的を説明するが、B64 項 (q) (ii) で要求している情報をどのように作成すべきかについてのガイダンスは設けない。
- c. IFRS 第3号の B64 項 (q) (ii) において、同項で要求している情報を作成する際に企業が適用する基礎は会計方針である旨を定める。
- d. IFRS 第3号の B64 項 (q) における「純損益」という用語を「営業損益」に置き換える。「営業損益」は IASB の基本財務諸表プロジェクトでの定義によるものとする。
- e. 営業活動から生じたキャッシュ・フローに関する情報を開示するという要求を

追加しない。

### **財務活動から生じた負債及び確定給付年金負債**

IASB は、財務活動から生じた負債及び確定給付年金負債は負債の主要なクラスである旨を定める提案の開發に関する予備的見解に対するフィードバックについて議論を行った。IASB は、これらの負債が、負債の主要なクラスである旨を定めるのではなく、次のように修正することによって予備的見解の目的を達成することを暫定的に決定した。

- a. IFRS 第 3 号の B64 項(i)を修正して、「主要な」という用語を削除する。
- b. IFRS 第 3 号に付属する設例の IE72 項を修正して、財務活動から生じた負債及び確定給付年金負債を、引き受けた負債のクラスとして例示する。

#### **(今後の予定)**

IASB は、今後の会議で IFRS 第 3 号における開示要求を改善すべきであるという予備的見解についての再審議を継続する予定である。

### **基本財務諸表（11月16日（火）及び11月19日（金）の両日で実施）**

#### **(背景)**

IASB は、「基本財務諸表プロジェクト」及びより幅広い「財務報告におけるコミュニケーションの改善」に関する作業の一環として、2019年12月に公開草案「全般的な表示及び開示」（以下「PFS 公開草案」という。）を、2020年9月をコメント期限として公表した。PFS 公開草案が最終確定される場合には、IAS 第 1 号「財務諸表の表示」を置き換えることになる。

2021年3月から PFS 公開草案における提案の再審議が開始されており、概ねよく受け止められている提案については提案した内容で進め、範囲を絞った議論を行う（すべての側面について再審議を行わない。）こととされている。

また、その他の賛否が分かれている PFS 公開草案における次の提案については、はじめに検討の方向性を決定したのちに、提案の詳細を議論する段階的なアプローチを採用することとされている。

- a. 表示すべき最低限の行項目
- b. 営業費用の分析（2021年10月の IASB ボード会議）

- c. 通例でない収益及び費用
- d. 不可分な・不可分でない関連会社及び共同支配企業（2021年10月のIASBボード会議）
- e. 経営者業績指標（MPM）の範囲（2021年3月、6月、9月及び10月のIASBボード会議）

**（今回の会議における主な論点）**

今回のIASBボード会議では、上記の賛否が分かれているPFS公開草案における提案のうち、下記に関する提案について再審議された。

- a. 経営者業績指標の定義について（上記eに関するもの）
  - i. 業績の一側面についての経営者の見方
  - ii. 財務諸表外での一般とのコミュニケーション
- b. 経営者業績指標が財務業績の諸側面を財務諸表利用者に忠実に表現するという要求について（上記eに関するもの）

**（暫定決定事項）**

**経営者業績指標—業績の一側面についての経営者の見方**

IASBは、次のことを暫定的に決定した。

- a. 「企業の財務業績の一側面についての経営者の見方を提供する」を経営者業績指標の目的として維持する。
- b. 「企業の財務業績の一側面についての経営者の見方を財務諸表利用者に伝える」を経営者業績指標の定義において維持する。
- c. 収益及び費用の小計のうち財務諸表外での公開コミュニケーションに含めたものは、企業の財務業績の一側面についての経営者の見方を表しているという反証可能な前提を設ける。
- d. 企業が(c)の前提に反証することを認めるのは、収益及び費用の小計が業績の一側面についての経営者の見方を表していないことを証明する合理的で裏付け可能な情報を企業が有している場合のみとする。
- e. 企業が反証の裏付けとなる合理的で裏付け可能な情報を有しているかどうかを評価する方法についてハイレベルの適用指針を設ける。当該ガイダンスには、収益及び費用の小計が経営者業績指標であるかどうかの評価は全体としての当該小計について行われる旨の説明が含まれる。

### **経営者業績指標と一般とのコミュニケーションの範囲**

IASB は、経営者業績指標の定義を適用する目的で考慮する一般とのコミュニケーションの範囲を、口頭でのコミュニケーション、原稿及びソーシャル・メディアの投稿を除外することによって狭めることを暫定的に決定した。

### **経営者業績指標—忠実な表現**

IASB は、次のことを暫定的に決定した。

- a. 経営者業績指標を利用者に誤解を与えない明瞭かつ理解可能な方法で記述するという要求を企業がどのようにして適用できるのかについての適用指針を追加する。当該ガイダンスは、使用した用語の意味及び適用した方法（特に、それらが IFRS 会計基準を適用した場合に使用するものと異なる場合）に関して企業に透明性があることの必要性を扱うことになる。
- b. 財務諸表における情報は忠実な表現を提供するという一般的な要求があるため、その要求を経営者業績指標についての具体的な要求事項において繰り返す必要はない。

#### **（今後の予定）**

IASB は、今後の会議で本プロジェクトの提案を引き続き再審議する予定である。

### **IASB 作業計画のアップデート**

#### **（今回の会議における主な論点及び決定事項）**

IASB は、IFRS 第 15 号「顧客との契約から生じる収益」、IFRS 第 16 号「リース」及び IFRS 第 9 号「金融商品」の減損及びヘッジ会計の要求事項の適用後レビューの時期について検討し、2022 年後半に、次のことを行うことを決定した。

- a. IFRS 第 15 号及び IFRS 第 9 号の減損の要求事項の適用後レビューを開始する。
- b. IFRS 第 16 号及び IFRS 第 9 号のヘッジ会計の要求事項の適用後レビューを開始する時期を検討する。

#### **（今後の予定）**

IASB は次のことを行う予定である。

- a. IFRS 第 15 号及び IFRS 第 9 号の減損の要求事項の適用後レビューのプロジェクト計画について議論する。
- b. 2022 年後半に、IFRS 第 16 号及び IFRS 第 9 号のヘッジ会計の要求事項の適用

後レビューを開始する時期を検討する。

## **IFRS 第10号「連結財務諸表」、IFRS 第11号「共同支配の取決め」及びIFRS 第12号「他の企業への関与の開示」の適用後レビュー**

### **（背景）**

IASBは、2020年12月に、情報要請「IFRS 第10号『連結財務諸表』、IFRS 第11号『共同支配の取決め』及びIFRS 第12号『他の企業への関与の開示』の適用後レビュー」を、2021年5月をコメント期限として公表した。2021年7月のIASBボード会議では、IASBは、本情報要請に対するフィードバックに関して議論した。

2021年10月のIASBボード会議では、IFRS 第10号「連結財務諸表」、IFRS 第11号「共同支配の取決め」及びIFRS 第12号「他の企業への関与の開示」が意図されたように機能しているかどうかを評価し、意図されたように機能していると結論を下した。また、IFRS 第10号、IFRS 第11号及びIFRS 第12号の適用後レビューで、IASBが追加的なアクションを取ることを検討すべきトピックが識別された。

### **（今回の会議における主な論点）**

今回のIASBボード会議では、IFRS 第10号、IFRS 第11号及びIFRS 第12号の適用後レビューから生じた2つのトピックについて、追加的なアクションを取るべきかどうか、及び適用後レビューを完了すべきかどうかについて議論が行われた。

### **（決定事項）**

IASBは、IFRS 第10号、IFRS 第11号及びIFRS 第12号の適用後レビューから生じたトピックについて追加的なアクションを取ることを決定する前に、適用後レビューからのフィードバックに基づいて追加的なアクションを取るべきかどうかの決定について戦略の追加的な諸側面を開発することを決定した。

### **（今後の予定）**

IASBは、今後の会議で戦略について議論する予定である。

## **【11月19日（金）】**

### **動的リスク管理**

#### **（背景）**

IASBは、資産及び負債の内訳が絶えず変動するポートフォリオ（オープン・ポートフォリオ）に対してヘッジ手段を適時に対応させるリスク管理手法（動的リスク管理

(DRM) に、現行のヘッジ会計の要求事項を適用することの困難さを踏まえ、DRM の会計処理について検討を行うリサーチ・プロジェクトを進めている。2021年5月のIASB ボード会議では、プロジェクトの計画及び本プロジェクトにおいて提案しているコア・モデルの評価に係るアウトリーチ（2020年10月から2021年2月にかけて実施）の間に識別された主要な課題を検討するための日程について議論が行われた。

2021年9月のIASB ボード会議では、アウトリーチの間に識別された主要な課題のうち、DRM モデルを企業のリスク管理手法に近づけるためにリスク限度の概念を組み込むことの課題への対応について議論が行われている。

#### **(今回の会議における主な論点)**

今回のIASB ボード会議では、作成者とのアウトリーチで識別された課題に対処するためのDRM モデルの精緻化について議論が行われた。

#### **(暫定決定事項)**

##### **DRM の精緻化—リスク限度**

IASB は、企業がリスク管理戦略をDRM モデルにより良く反映できるようにするため、次のことを暫定的に決定した。

- a. 目標プロファイルの定義を改訂して、現在の正味オープン・リスク・ポジションが企業のリスク管理戦略と整合的でありつつ変動することのできる範囲（リスク限度）とする。
- b. DRM モデルに「リスク軽減の意図」の要素を導入する。これは企業がデリバティブを使用して軽減することを意図するリスクの程度を表す。
- c. ベンチマーク・デリバティブの構築についての要求事項を改訂して、ベンチマーク・デリバティブがリスク軽減の意図を表すようにする。
- d. 企業が金利の変動による価格改定リスクを軽減し目標プロファイルを達成するためにDRM モデルを使用することを確保するための将来に向かっての評価を、予想外の変化から生じた不一致をDRM モデルに反映させるための同様の遡及的な評価とともに、導入する。

##### **DRM モデルにおける早期償還可能な資産の一部分の指定**

IASB は、企業が早期償還可能な資産のポートフォリオの一部分を指定することを認めるためのDRM モデルの追加的な精緻化を行わないことを暫定的に決定した。

#### **(今後の予定)**

IASB は、アウトリーチのフィードバックから識別される他のトピックに関して追加的なアクションを取るべきかどうかを検討する予定である。

## IFRS for SMEs 基準の第2次包括レビュー

### （背景）

IASBは、2020年1月に、IFRS for SMEs 基準を完全なIFRS 基準と整合させるかどうか、またどのように整合させるかについて意見を求めるための情報要請「IFRS for SMEs 基準の2019年における包括的な見直し」を、2020年10月をコメント期限として公表した。2021年3月のIASBボード会議では、本情報要請における調整(alignment)アプローチを用いて、IFRS for SMEs 基準の修正の公開草案を作成することを暫定的に決定した。2021年5月のIASBボード会議から、IFRS 基準と整合させることができるIFRS for SMEs 基準の具体的な章の審議が開始されている。そのボード会議では、第2章「概念及び全般的な原則」及び第11章「基本的な金融商品」が取り上げられ、暫定決定が行われた。また、2021年10月のIASBボード会議では、第11章、第12章「その他の金融商品に関する事項」及び第23章「収益」の修正並びにIFRS第13号「公正価値測定」及びIFRS第14号「規制繰延勘定」が取り上げられ、暫定決定が行われた。

### （今回の会議における主な論点）

今回のIASBボード会議では、公開草案に向けて、IFRS for SMEs 基準の修正を提案すべきかどうか、及び提案する場合の提案方法についてIFRS第16号等を対象に議論した。

### （暫定決定事項）

#### IFRS 第16号「リース」

IASBは、次のことを暫定的に決定した。

- a. IFRS for SMEs 基準の第20章「リース」を変更せずに維持する。
- b. IFRS for SMEs 基準をIFRS第16号「リース」に合わせるように修正することを、IFRS for SMEs 基準の将来のレビューにおいて検討する。

#### IAS 第19号「従業員給付」(2011)

IASBは、次のことを暫定的に決定した。

- a. IFRS for SMEs 基準の第28章における解雇給付についての認識の要求事項をIAS第19号「従業員給付」の2011年修正に合わせるためのIFRS for SMEs 基準の修正を提案する。
- b. IFRS for SMEs 基準の第28.24項における会計方針の選択肢を維持する。

#### 第28.19項で認めている簡素化

IASBは、次のことを暫定的に決定した。

- a. IFRS for SMEs 基準の第 28.19 項の削除を提案する。
- b. 利害関係者が IFRS for SMEs 基準の第 28.19 項の削除に同意しない場合には、同項の適用方法を明確化する代替的な提案をコメント募集に含める。

#### 修正を提案していないその他のトピック

IASB は、本情報要請に対するフィードバックを考慮して、アジェンダ・ペーパー 30E（当該ペーパーは、IFRS for SMEs 基準で扱っていないトピック及びコメント提出者が IFRS for SMEs 基準に関して IASB に指摘したトピックに対するフィードバックを検討している。）で識別されたトピックについて、開発費の認識及び測定を除いては、IFRS for SMEs 基準を変更せずに維持することを暫定的に決定した。

#### **（今後の予定）**

IASB は、今後の会議でプロジェクト提案を引き続き開発する予定である。

別紙 スケジュール

11月15日（月）

時間（予定）	アジェンダ項目
11:30-13:00	料金規制対象活動（アジェンダ・ペーパー9） （予定 90 分→78 分）
13:00-14:00	休憩
14:00-15:30	第3次アジェンダ協議（アジェンダ・ペーパー24） （予定 90 分→81 分）
15:30-15:45	休憩
15:45-17:15	第3次アジェンダ協議（アジェンダ・ペーパー24） （予定 90 分→75 分）

11月16日（火）

時間（予定）	アジェンダ項目
09:30-10:10	のれんと減損（アジェンダ・ペーパー18） （予定 40 分→74 分）
10:10-11:05	休憩
11:05-12:45	のれんと減損（アジェンダ・ペーパー18） （予定 100 分→87 分）
12:45-13:30	休憩
13:30-14:45	基本財務諸表（アジェンダ・ペーパー21） （予定 60 分→87 分）
14:45-15:00	休憩
15:00-15:45	基本財務諸表（アジェンダ・ペーパー21） （予定 45 分→28 分）
15:45-16:15	IASB 作業計画のアップデート（アジェンダ・ペーパー8） （予定 30 分→30 分）
16:15-16:30	休憩
16:30-18:00	IFRS 第10号、IFRS 第11号及びIFRS 第12号の適用後レビュー（アジェンダ・ペーパー7） （予定 90 分→66 分）

11月19日（金）

時間（予定）	アジェンダ項目
09:15-10:45	動的リスク管理（アジェンダ・ペーパー4） （予定 90 分→74 分）
10:45-11:00	休憩
11:00-12:15	IFRS for SMEs 基準の第2次包括レビュー（アジェンダ・ペーパー30） （予定 75 分→70 分）
12:15-13:00	休憩
13:00-13:45	IFRS for SMEs 基準の第2次包括レビュー（アジェンダ・ペーパー30） （予定 45 分→55 分）
13:45-14:45	基本財務諸表（アジェンダ・ペーパー21） （予定 60 分→48 分）

以 上